

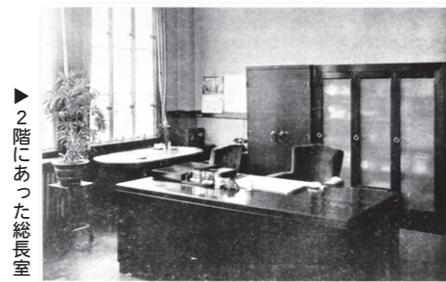
百周年時計台記念館

大正14年（1925年）の完成以来、時計台は京都大学のシンボルとして親しまれてきました。いよいよ12月13日に、「百周年時計台記念館」として新しく生まれ変わります。京都大学では、これから「学術の国際化」「異分野学問領域の交流」「社会と大学との学問的交流」が飛躍的に進展すると考えられます。「百周年時計台記念館」は創立以来の京都大学の歴史を評価するとともに、学術情報公開や様々な交流の場となることが期待されています。

（ココアリキュール）

時計台の歩み

現在時計台のある場所には、第三高等学校時代の創立以来の本部本館がありました。しかし1912（大正元）年に焼失してしまいます。その後、10年以上の空白の後、1925（大正14）年に現在の時計台が建てられたのです。



▶ 2階にあった総長室

設計は工学部建築学教室初代教授である武田五一氏を中心に行われました。建物のデザインにはゼツェッション様式が取り入れられています。この様式は元々ウィーンで始まり、日本でも明治末期から大正期に流行しました。時計台は武田氏の代表作というだけでなく、日本におけるゼツェッション様式最後の大規模建築としても高い価値があると言えます。



▶ 法経第1教室での授業風景



▶ 大ホールでのパーティーの様子



建物の2階には総長室、貴賓室などの他に2000人を収容する大ホールが置かれ、入学宣誓式や卒業式をはじめ各種の儀式が執り行われました。1階には法学部・経済学部の教室がありました。特に旧法経第一教室は学内で最も広く、授業だけでなく様々な講演会や学生大会などにも使われました。

なお、時計台前のクスノキは時計台竣工前に植えられたのですが、1934（昭和9）年の室戸台風によって倒されてしまい、現在の木はその後新しく植えられた2代目です。



▶ 時計台の側に立つ、新城元総長の像

写真提供：京都大学文書館

はみだし
すてーじ

私の友人は、よく突発的に歌のワンフレーズを熱唱します。初めはびっくりしたけどもう慣れっこです。ちなみにさわやかな青年です。
⇒抑えきれない心の叫びがほとぼっているのでしょう

（総・5 ←は思いつかない人）
（歌うなら風呂の中をおすすめする編）

百周年時計台記念館内の施設



▶ 大ホールの外観



大ホール

旧法経第一教室が、最新の設備・機能を備えた多目的大ホールとして生まれ変わります。北側の中庭に突き出した大ホールは外壁がガラス張りになっており、日中は北側の法経本館などのまわりの景色が映り、時刻によって表情が変わります。

内部は500名程度収容可能な大ホールで、同時通訳装置を併設しており、国際学会も開催可能です。このホールには国外・国内のマルチメディア情報の送受信が可能な設備が設けられます。国際・国内学会のみならず、常時は公開講座などにも使用される予定です。



▶ 大ホール内部

京大サロン

学問分野の違いを超えて、教官や名誉教授等が自由に交流する場となります。同窓生や退官された教職員にも開放されます。

喫茶・レストラン

教職員、学生、学外の研究者等が、食事を楽しみながら気軽に交流できる場となりそうです。

展示ホール

京都大学文書館による京都帝国大学設立以来の歴史に関連する調査研究の成果や、関連資料の展示公開の場となります。

京大ショップ

大ホールの入り口前のスペースでは、京大オリジナルグッズや、京大の教官の著作、京都を紹介する本を販売するカウンターが設置されます。

2F 国際交流ホール

近年、大学間の国際交流が盛んになるにつれて、公式の式典や行事が行われる機会が増えてきています。このホールはそういった催しの会場として、新しく作られました。

時計台生協ショップ

これまで仮店舗で営業していた中央購買部が、時計台の地下に移転します。12月8日から営業開始予定です。商品の種類はほぼ変化なしですが、スペースの都合上、日用品が減ります。JRチケットはコンベンションセンターで扱われるようになり、一部の京大グッズは1Fの京大ショップで販売されるようになります。

コンベンション・サービスセンター

学内で行われる学会や、国際会議などの開催のサポート（宿泊の手配など）を行います。JRチケットもここで取り扱います。

ピロティ

時計台の地下に設けられたスペース。工学部8号館側と附属図書館側に入り口があり、東西に通り抜けることができます。自動販売機や机、椅子が置かれ、憩いの場となりそうです。

はみだし
すてーじ

目録の「マイティア」は絶対涙じゃない。赤いもん。
⇒それはきっと、合戦で無念のうちに死んだ武士が何かが流した血の涙です！

（法・1 板倉由佳）
（涙は心の汗だ！と主張したい編）